

側弯症検診・検診環境（着衣状況）からの疑い率

よし なお まさ とし
吉 直 正 俊

キーワード：側弯症，学校検診，検診環境，着衣，疑い率

要 旨

出雲医師会運動器検診アドバイザーの立場で，検診環境ことに着衣状況の有無による側弯症検診の疑い率精度を検証した。モアレ撮影を導入していない県や市での側弯症疑い率の低さに対し，学校医の専門性の違いによるという意見や，一次検診に整形外科専門医を動員すべきだという意見が正当性を持ちやすい。しかし，実際の検診環境（着衣状況）に言及して疑い率を分析した報告は見当たらない。検診環境はことに女子の「羞恥心への配慮」のあり方で異なり，疑い率の低さに至っている可能性がある。そこで，出雲市内の全小学校・中学校に検診時の着衣状況のアンケート調査を行い，専門医受診推奨率（疑い率）の違いを調べた。その結果，「体操服」での検診は特に女子において受診推奨率が極めて低値であり，不適當であることが明確になった。そして，現行の内科医・小児科医主体の側弯症検診でも，適切な着衣状況であれば，その疑い率は妥当性を持つことが分かった。

はじめに

側弯症検診は昭和54年度から全国で学校検診の中に組み込まれ，平成28年度から運動器検診の一部として強調されるようになった。しかしながら，平成18年大阪府において検診での見逃しに対し訴訟が起こったこともあり，検診精度の検証が必要とされてきた。そのため，在所の大学整形外科などの協力を得てモアレ撮影を導入している自治体（東京都¹⁾，愛媛県²⁾，兵庫県³⁾，岩手県⁴⁾など）

が増えつつある。

学校医の多くは内科・小児科医であり，整形外科専門医が学校医を務めている例は少ないため（島根県：出雲市，浜田市各1名），側弯症検診の疑い率の県間格差・学校間格差は担当した学校医（検診医）の専門性の違いに起因するという意見が流布しやすい。そして，モアレ撮影を導入していない県や市には「内科検診とは別な時間に整形外科専門医による検診が理想だ⁵⁾」とする意見が正当性をもって述べられやすい。しかし，学校検診（運動器検診）の手順の説明はあるが，実際にどのような着衣状況下で行った方がよいかは明記されていない⁶⁾。そのためか，実態不明なまま，国

Masatoshi YOSHINAO

医療法人吉翔会 吉直整形外科クリニック

連絡先：〒691-0002 出雲市西平田町242

医療法人吉翔会 吉直整形外科クリニック